

項目		自己評価			学校関係者評価		今後の学校改善に向けて	
		小項目評定	中項目評定	現況	中項目評定	意見・提言等		
主體的・対話的で深い学び	1	支持的風土を育てる学級・学年集団づくりを進めた。	2	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍のため、当初は一斉授業中心の指導であったが、少しずつ感染症対策を取りながら、協働する体験や伝え合う活動を取り入れた授業を行うことができるようになった。</li> <li>・いろいろな体験が不足している現状、学校や地域でできる活動を模索した。</li> <li>・学級間での交流や異学年活動も制限されたので、縦のつながりの育成があまりできなかった。</li> <li>・支持的風土のある集団になるように、互いを認め合える学級作りを意識し、取り組んできた。</li> </ul>	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「読み解く力」をいっそう高め、その力を発揮できる授業作りに取り組んでほしい。</li> <li>・まずは子どもたちに基礎基本的な学力をつけることが大切である。</li> <li>・コロナ禍のおかげでこんなことができたなどプラスに受けられる風土づくりができればよいと思う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新しい生活様式の中で、どのような活動ができるかは分からないが、子ども達の達成感や意欲が損なわれないような活動を考えて取り組んでいきたい。こんな時期だからこそ、思いやりの気持ちを忘れず友だちと関わる意識を持たせたい。</li> <li>・組織的な積み上げができていないため、系統立てていくことと礎となるところを分けながら授業力アップを学校全体で行っていく。</li> </ul>
	2	協同する体験・伝え合う喜び・コミュニケーション能力の育成を図る授業の工夫改善に努めた。	2					
	3	主體的・対話的で深い学びを追求する授業研究や研修に取り組んだ。	2					
道徳教育の充実	4	生命を尊重する心やいじめを許さない態度などの道徳的実践力を育てる指導を工夫した。	3	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己有用感を持てる取り組みを行ったことで、アンケート結果が大幅に伸びた。</li> <li>・学年の初めに全校共通で「いじめ」とはどういうことか、絶対に許されない行為であるということを指導して考えさせる機会が何度もあったのが良かった。</li> <li>・毎月人権の日を設定し、教師が様々な方法で子どもたちに人権啓発する取り組みを計画的に進めることができている。</li> <li>・コロナ感染症予防対策のため、授業参観を実施することができなかった。</li> </ul>	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業公開ができない場合の通信での情報発信はよい考えである。</li> <li>・教科書頼りでは全くだめだと思う。</li> <li>・道徳通信の発行は有効であると思う。教師の願いや家庭での協力など積極的に発信できるとよい。</li> <li>・自己肯定感を高める取り組みは効果的であるように思う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者に向けての授業公開が困難な場合は、どのような道徳の授業を行ったことという内容を各学年で紹介する通信を発行してもよいのではないかと考える。また、HPを使って発信していくこともよいのではないかと。</li> <li>・道徳の授業をZoomで公開できるとよい。</li> <li>・道徳科の教材については、各学年で挿絵や指導案等をためていけるとよい。</li> </ul>
	5	道徳科の授業・評価に関する研究や資料の開発・整備・交流に取り組んだ。	2					
	6	積極的に保護者等への道徳科の授業公開を行った。						
体力づくり	7	たくましい心と体を育てる魅力ある授業の工夫改善に努めた。	2	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動制限がある中でできる範囲の学習活動を工夫して取り組むことができた。個人の伸びに目を向けて体育科の学習に取り入れたり、ソーシャルディスタンスを保ったりする工夫を考えた。</li> <li>・今年度は、コロナ対策の中で様々な試行錯誤で授業改善に努めた。体育科学習発表会で極めた「走」は児童のフォームがよくなったと感じる。ジャンピングボードを設置することで体力づくり、環境づくりができた。また、わにっ子スパートライの実施で児童が運動に親しむ機会が提供できたと考える。</li> </ul>	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の自然環境を生かした活動があるとよい。スキー教室やカヌー教室など。</li> <li>・チャレンジランキング、ジャンピングボードなど、子どもが意欲的に運動に取り組み環境作りを今後も期待する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内で行っているチャレンジランキングを盛り上げていくために、全校的なイベントを開催していく。</li> <li>・がんばった児童については、放送や映像で紹介して表彰していく。</li> <li>・ジャンピングボードに続く、運動に親しむことのできる用具を作成することで環境を充実させていく。</li> <li>・日常の運動に目を向け、毎日の体力作りを意識する。</li> </ul>
	8	運動に親しむ環境づくりや体力づくりに努めた。	2					
	9	体を動かす気持ちよさを体験させ、進んで体を動かそうとする意欲を育てた。	2					
指導改善	10	学力向上を目指した指導体制・指導方法の工夫改善に努めた。	2	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・休校期間があったり、行事がなくなったりしたことで、例年よりも教材研究にじっくり取り組むことができた。会議が減ったため、学級事務に取り組める時間が増えた。</li> <li>・教職員同士で指導方法・単元構成などの情報交換や適材適所で分業ができ、退勤時刻が早くなった。</li> <li>・相手の時間をしっかり思いやり、会議等の時間厳守などたくさん取り組みがあり、意識が大きく変わったように思う。</li> <li>・スクールサポートスタッフにお願いすることで、印刷の負担が減り、仕事の効率が上がった。</li> </ul>	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・この時期、それぞれの教育活動を見つめ直す機会にしてほしい。</li> <li>・学校行事をただ減らすだけでなく、バランスよく設定することが重要である。</li> <li>・学芸テストの客観的な目標値を定め、「学ぶ力の一層の向上」に取り組んでほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度は学校行事が減ったため、その分学習に集中できる時間の余裕ができた。来年度以降も学校行事・会議などの前年度の内容を踏襲するのではなく、その都度本当に必要かどうかを考えて精選していく。</li> <li>・ベテランや教科指導に長けた教員が講師となって希望者にOJT研修を気軽に開けるようなシステムを作ることで、教師間の交流が活発化させる。</li> </ul>
	11	教職員の指導力及び組織的な教育力の向上に努めた。	2					
	12	働き方改革の取り組みと教育活動の質の改善に取り組んだ。	2					

項目									
育ちと学びを支える連携	家庭・地域との連携	13	保護者に対して、子育てに対する支援や研修会を行った。	1	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2学期から、地域の方に積極的に協力を依頼し生活科や総合的な学習の時間の学習を進めていくことができ、子どもたちの学びを深めることができた。</li> <li>・今年度から修学旅行の行き先を淡路に変更し、防災教育をおこなっている。今年度は、防災教育の年間指導計画が完成できるように取り組みを進めている。</li> <li>・ニューズレターを通して、生徒指導や教育相談に関わる情報を発信できた。</li> <li>・参観はできなかったが、ホームページや通信などで少しは発信することができた。</li> </ul>	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナを教材にした授業や学校だよりでの呼びかけが有効であった。</li> <li>・とても見やすいホームページで丁寧に発信されていると思う。</li> <li>・地域との協力体制はうまく連携がとれている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・分散参観やズームを使って、コロナ禍でも行える、保護者や地域との交流の方法を取りいれていく。</li> <li>・来年度は、完成した防災教育の年間指導計画を使って学習を進めていく。</li> <li>・コロナ禍でホームページの閲覧数が大幅に伸びているため、積極的に学校の情報をホームページで発信していく。</li> </ul>
		14	保護者・地域との交流や情報発信、参観、懇談会、研修会の実施、地域人材の活用に努めた。	2					
		15	防災教育の推進と安心・安全な学校づくりを進めた。	2					
	保幼小中の連携	16	子どもの校種間交流や教員の出前授業等、積極的な連携に努めた。	1	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・例年の秋まつりができなかったが、おもちゃを保育園、幼稚園に届け遊んでもらうことができた。</li> <li>・幼稚園の作品展に教員や児童が参観することができた。</li> <li>・幼稚園実習、小学校実習を通して、それぞれの教員が校種間の交流を行うことができた。</li> <li>・1日入学を実施することができなかったが、小学校教師が出向き、小学校生活の話や、授業体験を行うことができた。</li> <li>・コロナの影響で、1年生と5歳児のつながりをもつことができなかった。</li> </ul>	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スタートアップカリキュラムとアプローチカリキュラムの公開可能な内容は、HPなどで紹介してほしい。</li> <li>・コロナ禍でも工夫して研修はするべきである。</li> <li>・ビデオレターなどで工夫して交流できたのでよかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新一年生の事前の引き継ぎをしつかりと行い、受け入れ体制を築いていきたい。</li> <li>・対面での校種間交流が厳しければ、テレビや資料を使っての交流を取り入れる。</li> <li>・出前授業などを、積極的に活用していく。また、作品展の交流なら可能と考える。</li> </ul>
		17	校種間の授業公開や合同研修会や教育内容等の交流に努めた。	1					
		18	保幼小の接続期の教育課程の編成等、校種間のカリキュラム研究に取り組んだ。	1					
組織体制の充実	生徒指導体制の充実	19	いじめや暴力行為、不登校等生徒指導上の諸課題の早期発見、日常的な予防指導に努めた。	3	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・未然防止、早期発見・対応を意識できた。学年、生徒指導、管理職と情報を共有し、組織的に対応することを今後も続けたい。いじめや問題行動に対しては、芯をしっかりと通して指導を続けることができた。</li> <li>・毎月のふりかえりアンケートで児童の状況を把握し、すぐに対応できるように努めた。また、話を聞くときには、複数で対応し、学年間でもすぐに共有することができた。</li> <li>・学期ごとにいじめの傾向をデータ化し、全職員で振り返りを行うことで来学期のいじめ対策の参考にできた。</li> </ul>	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童アンケートの設問が高ポイントになっている点など、教師間の連携がとれ、組織的に対応できている成果である。</li> <li>・SNSなどによるいじめ問題が増加する傾向にあり、児童の実態をしっかりと把握する必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後もいじめ対策の研修を定期的に行い、教師間の意識を高めていく。</li> <li>・インターネット、ゲーム、SNSをとおしたトラブルが増えてきているため、アンケート結果を分析し、適切な対策を取っていく必要がある。</li> <li>・いじめを未然に防止できる活動を児童発信で行っていくことで、いじめは許されないものであるという態度を育てる。</li> </ul>
		20	生徒指導・教育相談体制を確立し、組織的に推進した。	3					
		21	家庭・地域・関係機関との連携による指導に努めた。	2					
	特別支援教育の充実	22	個別の教育支援計画及び個別の指導計画の作成と活用に努めた。	2	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別支援計画を作成して、支援の必要な児童に対しては、保護者や関係機関と連携をとりながら、指導を進めることができた。</li> <li>・個別の教育支援計画の一覧を作成し、どの学級にどんな支援が必要な児童がいて、どこまで対応できているかが分かるようにした。そのことで、優先順位を考え就学相談についての取り組みや個別指導など適切な対応が取れるようになった。</li> <li>・スクールカウンセラーや外部機関と協力し、支援を進めることができた。</li> </ul>	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・組織的な特別支援体制が今後不可欠である。</li> <li>・保護者に対して、特別支援教育理解のための情報発信を進めていく必要がある。</li> <li>・保護者に寄り添い、保護者の思いや願いを共有できる必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援委員会をひらき、定期的に個別の指導計画児童の状況を把握し、支援方法を考える必要があると思う。</li> <li>・個別の支援計画を計画的に作成し日々見直す中で、児童の個別支援に活用できるようにする。そのためにも、児童の実態をよく観察し、必要な支援策について、ポイントを絞って記入するよう努める。</li> </ul>
		23	組織的・計画的な特別支援教育体制を確立した。	2					
		24	関係機関と連携した相談体制の充実に努めた。	2					
学校満足度	25	児童は学校に満足している。(アンケート結果より)	3						